

2 1 タバコの火の不始末

1 タバコと火災

我が国においては、タバコは放火に次ぎ第二位の火災原因となっています。それだけに、タバコは着火源として認知度も高いはずなのですが…

2 消したはずが…

「19. 酸化と燃焼」で取り上げたように、自分は「火が消えた」と思っている、酸素に触れている限り酸化反応は着実に進行し、熱が蓄積されています。特に、火がついていた部分は燃えやすくなっています。

【事件事例】

- ① 閉店直後の給油取扱所内で、タバコの吸殻を入れておいたポリエチレン製の容器が燃えた。(H19)
- ② タバコの吸殻が完全に消えたことを確認せず、ゴミ箱に捨てたことにより、紙屑が発火。(H19)
- ③ タバコの吸殻を完全に消火せずポリ容器に捨てたことにより、容器内にたまっていた吸殻に着火炎上し、ポリ容器を焼損。(H18)

3 タバコは水で完全に消してください。

水はすぐれた消火剤です。タバコを水で消すと、水分がタバコから酸素をシャットアウトしてくれます。責任者の方から、アルバイトを含めた従業員の方に周知して下さるようお願いいたします。



タバコの火の不始末で出火した例

出典：総務省消防庁「危険物等事故報告オンライン処理システム」